アクアリウム・ダイアリー

2025年3月～2025年5月

催し物

3月25日～	新イルカパフォーマンス『Blue Echo』開始
	発見コーナー スナメリ解説パネル 公開
3月25日,28日	スナメリかんさつツアー
3月25日～4月13日	季節展示「春告魚（シロウオ）」展示
3月26日	特別展示「飼育係、南極に行く」
	南極に行った飼育係によるガイドツアー
4月26日～	当館で生まれました!「ホソスジマンジュウイシモチ」展示
4月29日	「ウィニー」の赤ちゃん命名式

【水族館スクール“もっと知りたい!ダーウィン教室”】

3月 9日	「大接近!ベルーガ飼育の舞台裏」 参加者6組15名
5月25日	「感じて納得!めざせシャチ博士」 参加者4組15名

生物の出来事

3月14日	沖縄よりグルクマ500匹等搬入
3月24日	ザラビクニン展示開始
4月26日	今シーズン初めてのウミガメの産卵
	アカウミガメCcW-19　65卵

サンゴ礁大水槽に
搬入されたグルクマ

来訪者

3月14日	のとじま臨海公園水族館　境谷　仁　館長
3月15日	仙台うみの杜水族館　増渕　修　館長
3月27日	京都大学　ヒト行動進化研究センター　足立幾磨　准教授

講演・その他出来事

【講演など】

3月 1日	令和6年度名古屋港水族館共同研究講演会 常磐大学　中原史生教授 『名古屋港水族館のシャチは何弁で会話をしている? ～野生下、飼育下でのシャチのコミュニケーション研究～』
3月 5日	中部ブロック獣医師研究会（参加 小谷由佳子）
3月 5日～6日	JAA水族館研究会 口頭発表「バンドウイルカの人工授精の一例」 （榊原正己） ポスター発表「名古屋市内の河川に生息する カワリヌマエビ類」（中嶋清徳）
3月 8日	ボランティア自主企画「おはなし会」開催
3月11日	愛知大学キャリア支援センターと連携協定締結
3月21日	名古屋市環境局 SDGsフィールド交流会 （参加 加藤浩司）
4月17日～18日	中部ブロック園館長会議（参加 栗田正徳）
4月17日～18日	科学的根拠に基づいたペンギン類の 動物福祉に配慮した適正な飼育施設基準の 策定に向けた検討会議（参加 大島由貴）
4月23日	JAZA将来構想ブレインストーミング会議 （オンライン参加 榊原正己）
5月 2日～11日	IAAA（参加 神尾高志）
5月21日～22日	日本動物園水族館協会総会（参加 栗田正徳）

【講師派遣】

3月 4日	名古屋大谷高等学校（加藤浩司）
5月 9日	名城大学博物館情報論講義（加藤浩司）

【職場訪問・レクチャー】

9件　609名

【職場体験】

1件　4名

編集後記

イルカのパフォーマンスが一新され、衣装も新しいデザインになりました。私も昔イルカを担当していた頃、一度だけ衣装づくりに関わったことがあります。パタンナーさんと一から形を考え、生地を選び、調整を重ねて完成した一着。そのときの大変さと、仕上がったときの喜びを、今回の新しいパフォーマンスを見て思い出しました。新しいパフォーマンスとともに、衣装もあわせて楽しんでいただけたらと思います。（小倉）

表紙写真
【セパレートジャンプ】
“BLUE ECHO”から取り入れたジャンプ。日本最大級のプールをいかしイルカたちが別々の場所でタイミングをそろえてジャンプをします。実はトレーニングで一番時間を要した種目です!

ニュースレター さかなかな Vol.126 2025年 夏
発 行／公益財団法人 名古屋みなと振興財団　名古屋港水族館
〒455-0033 名古屋市港区港町1番3号　TEL.052-654-7080
URL https://nagoyaaqua.jp
本誌の掲載記事、写真等の無断複写・複製転載を禁じます。

WEBサイト
https://nagoyaaqua.jp
（なお、一部の機種でご覧いただけない場合があります）

さかなかな

2025 夏

Vol.126

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

名古屋港水族館

特　集

イルカパフォーマンス
“BLUE ECHO”

- 水族館トピックス
- 水族館アカデミー ダーウィンの箱
- ほねほね探検隊
- ボランティア便り
  私の館内おすすめポイント
- 水族館スクールレポート
- アクアリウム・ダイアリー

水族館アカデミー

ダーウィンの箱

水族館の活動を学術的な視点で見てみよう

Darwin's Box

名古屋港水族館生まれのホソスジマンジュウイシモチ

飼育展示第一課　尾田　愛実

2025年5月現在、名古屋港水族館では南館3階のマングローブ水槽にて、ホソスジマンジュウイシモチ（スズキ目テンジクダイ科）を18匹飼育しています。本種は西～中部太平洋にある沿岸部やマングローブ域に生息しており、成体では全長約10cmになります。繁殖の特徴としては、メスが約2週間ごとに卵を産み、オスが卵を口の中にくわえて、孵化をするまでの約10日間、保護する「口内保育」を行います。オスは卵を外敵から守るだけでなく、口を開け閉めして新鮮な海水を送り込み、卵が育つ環境を保っています。マングローブ水槽内でも、こうした繁殖行動をくり返している個体が見られたことから、繁殖に向けての取り組みを始めました。

左：マングローブ水槽にいる成体（大人）　右：孵化間近の卵をくわえているオス

マングローブ水槽内では、孵化した仔魚が他の魚に食べられたり、濾過装置に吸い込まれてしまったりする可能性があるため、繁殖を成功させるには卵を口にくわえたオスを別の隔離水槽に移す必要があります。このとき、オスはとてもデリケートな状態にあり、移動のストレスで卵を吐き出すことがあります。そうなると卵の生存率が大きく下がってしまうため、慎重に隔離することが重要です。

孵化直後の仔魚（全長 3mm）
左下：孵化直前の卵（直径 0.8mm）

無事に隔離できれば、やがて数千匹の仔魚が生まれます。ただし、すぐに親魚を取り出さないと親魚が仔魚を捕食してしまうケースもあるため、孵化を確認したら速やかに親魚を隔離水槽から取り出す必要があります。このように、繁殖には繊細な観察とタイミングの見極めが求められます。

孵化直後の仔魚の全長はわずか3mm程度。成長に合わせて餌のサイズも徐々に大きくする必要があります。しかし、餌を切り替える時期に体力を失ってしまうものも多く、最初に数千匹いた仔魚も、1か月を超えて生存するのは数匹でした。仔魚の生存数を増やすためには、栄養のある餌をこまめに与えることや、水質を保つために常に新鮮な海水を循環させることがとても重要です。

繁殖と飼育には多くの苦労がありますが、何度も挑戦と工夫を重ね、2024年10月に生まれた個体が40mmを超え、成体の姿に近づいてきました。2025年5月現在、最終的に17匹が元気に育っています。今後の成長がとても楽しみです。

孵化後 53 日の個体（全長 10mm）。
大人の体の模様の面影が見え始めた頃です。

ほねほね探検隊

ベルーガの骨格標本

飼育展示第三課　大友　航

ベルーガは首を器用に動かすことができるのを知っていましたか？

一般的なハクジラは 7 個の頸椎のうち 2 ～ 7 個が癒合し、高速で泳ぐときの首のブレを防ぐと言われていますが、ベルーガの頸椎は癒合していません。

北極周辺に生息し、氷で覆われた海や浅い河口でも泳ぐことから、小回りを効かせて泳ぐときに器用に動く首が役立っていると考えられています。

「進化の海」でベルーガの骨格標本を見ることができます。
他の鯨類のものと見比べてみてください。

ボランティア便り　私の館内おすすめポイント　Volunteer News

北館2階　マッコウクジラの骨格標本

ボランティア　辻　将典

“北館の頭上を泳ぐクジラ”

名古屋港水族館の北館に展示されている骨格標本といえば、シャチやベルーガ、パキケタスがまず思い浮かぶかと思います。

実は北館2階シャチスタジオ横のエスカレーターの上を見上げると、マッコウクジラとシャチの骨格標本が見られます。特にマッコウクジラの骨格標本はその圧倒的な大きさにとても驚きます。そして何より他の標本と違い、骨盤の痕跡を見ると･･･。来館の際には、通行の妨げにならないよう注意しながらぜひ観察してみてくださいね。

北館エスカレーター上の骨格標本。
足元に気をつけながら見上げてみてください。

水族館スクールレポート　School Report

共同研究講演会を開催しました

海洋生物研究センター　小林　清重

3月1日に常磐大学人間科学部心理学科の中原史生先生をお迎えして講演会「名古屋港水族館のシャチは何弁で会話をしている？ ～野生下、飼育下でのシャチのコミュニケーション研究～」を開催しました。この講演会は、事前申し込み制で148名の参加者がシネマ館で熱心に聴講されました。

中原先生は、動物行動学、比較認知科学がご専門で、シャチ、バンドウイルカ、スナメリ、コビレゴンドウなど様々な生き物を野生や飼育、地域にとらわれず、幅広く研究されておられます。名古屋港水族館とは2016年からシャチやバンドウイルカの鳴音によるコミュニケーションの共同研究を行ってきました。

講演中の中原先生

講演会では、中原先生が長年にわたり調査、研究で用いられている音声で探る手法で野生下や飼育下でのシャチの鳴音によるコミュニケーション研究について、楽しいエピソードも交ぜて紹介していただきました。講演後には活発な質疑応答が交わされ、参加者のアンケートでは、“知らないことが聞けた”、“研究の過程を知ることができた”、“鳴音の研究に興味が沸いた“など多くのコメントが寄せられました。

名古屋港水族館共同研究講演会
参加者募集用ポスター

名古屋港水族館では、これからも共同研究を紹介するこのような機会を作ってまいりますので、多くの方の参加をお待ちしております。

イルカパフォーマンス

“BLUE ECHO”

飼育展示第二課　森　朋子

名古屋港水族館のイルカパフォーマンスは、広報パートナーの株式会社JERAの全面サポートで2001年の北館開館以来、初めて大きく刷新し、“BLUE ECHO（ブルーエコー）”として新しく生まれかわりました。生命は地球環境のなかで進化し、同時に地球環境に影響を与えてきました。私たちは“BLUE ECHO”に生命のみなもとである青い地球、青い海と共鳴しながら美しい地球を次世代へ繋げて行こうという想いを込めました。今回はその魅力を皆さんにお届けします。

新しく生まれ変わったイルカパフォーマンス“BLUE ECHO”。私たちにとってもイルカにとっても新しいコンテンツがたくさん詰まったものになっています。ぜひ、これを機会に“BLUE ECHO”を見に来てください。

“BLUE ECHO”の魅力

1.パフォーマンス構成

今回はイルカパフォーマンスに初めて“BLUE ECHO”というタイトルを付け、オープニングからエンディングまでを通じ、生物の進化、多様性や環境保全に関連するストーリーを作りました。イルカパフォーマンスは、「オープニング」、「レクチャー」、「エンディング」の3部構成になっており、その見どころを紹介します。

❶ オープニング

長い時間をかけて育まれてきた美しい自然や多様な環境、そこにいる生物の多様性を表現した映像から始まり、イルカたちが颯爽と登場することで、イルカという動物にフォーカスを当てる序章になっています。

❷ レクチャー

「イルカの仲間の種類を比較」、「イルカたちとその他の動物との比較」、「イルカたちの生息域の比較」とパフォーマンス回ごとに異なるテーマのレクチャーを実施し、イルカたちがいかに進化してきたか、それを次世代に繋いで行くために私たちは何ができるかということを感じていただく構成になっています。

❸ エンディング

イルカたちの躍動感のある動きや自然界で行っている動きを多く取り入れ、青く美しい地球を未来に受け継ごうというメッセージを込めた音楽と共に展開しています。

2.イルカたちの動きにも注目！

社会性のあるイルカたちがみんなで協力して行う種目や、日本最大級のメインプールを最大限生かした種目を多く取り入れています。このパフォーマンスを改変するにあたり、イルカたちやトレーナーは約1年かけて少しずつトレーニングを行ってきました。

イルカたちのトレーニング前のミーティングの様子

1 速 泳　イルカたちが群れで移動するときの泳ぎを再現した最大9頭でプールを全速力で泳ぐ種目。しなやかな尾びれを使いぐんぐんと速度を上げて泳ぎます。プールの縁に沿って遠心力を感じさせるように泳ぐ姿は圧巻です。

2 スロージャンプ

イルカたちがタイミングを合わせて、空へ向かって飛び出す種目。助走の速度や飛び出すタイミングを水中で各々が調整しており、さらに、尾びれの力だけで300kg近くある体を悠々と宙に浮かせるのはイルカならでは。

お客様の前での大ジャンプ

3 セパレートジャンプ

今回の刷新から取り入れた種目。プールのいろいろな場所からトレーナーがイルカたちにサインを出してタイミングをそろえてジャンプをします。実はトレーニングで一番時間を要した種目です。

休館日に練習しているイルカ　たち。
○で囲んだ別々の場所での　ジャンプ

4 種目構成

実は種目の順番や種類をパフォーマンスごとに少しずつ変更しています。種目順が毎回決まっているとイルカたちはすぐ覚えてしまい動きが単調になったり、飽きてしまったりします。そこで、今回はイルカたちに次にどの合図が出るかわからないように工夫しています。そうすることでイルカパフォーマンス毎に変化が生まれ、イルカたちも集中が増し、わくわくできるように努めています。また、1頭に種目が偏りすぎないようにしたり、各々が頑張っているトレーニング途中の種目を披露したりするようなときもあります。何回パフォーマンスをみても同じことをしていない、違った楽しみ方もできます!

3.演出方法にも工夫を加えました！

1 字幕対応

様々な方にパフォーマンスを楽しんでいただくため、解説時には内容がわかるように字幕を使用し、英語も表記もしています。

2 映 像

今回の刷新では、美しい自然や海でのイルカたちの様子などの映像をふんだんに使用しています。パフォーマンスを通して、自分たちの過ごしている自然へ目を向けていただくきっかけを作るようにしました。

3 オリジナル曲

映像やイルカたちの動きに合わせて雰囲気を盛り上げる音楽もオリジナルで3曲作成しました。オープニングでは明るくアップテンポな曲調で、エンディングは厳かな雰囲気から気持ちの高まりを表現した壮大な曲調、そしてラストにはメッセージを込めた歌詞やイルカたちの動きに合わせたポップな曲調にしました。

エンディング映像には、オリジナル曲に使用した歌詞が出てきます

4 衣 装　生物の多様性を表現した色とりどりのデザインに一新。シーズン毎にトレーナーの衣装デザインが変わりますので楽しみにしてくださいね!

5 パフォーマンス前の楽しみ方

パフォーマンスが始まるまでの待ち時間の過ごし方にも工夫をしました。普段はなかなか紹介できない水族館で行っている「研究紹介」をしたり、子供たちにむけて飼育スタッフが撮りためた映像や描いたイラストをたくさん使った「いきものクイズ」をしたり、当日に楽しめるような「水族館トピックス」を紹介したりしています。さらに、パフォーマンス直前の諸注意のところでは飛び出す映像やアニメを用いてお子様たちも分かりやすい内容にしてみました。

水族館トピックス 2025 夏

Aquarium Topics 01

バンドウイルカの赤ちゃんの愛称は「ラッキー」です

赤ちゃんバンドウイルカ命名者認定証授与式の様子

昨年10月2日に誕生したオスの赤ちゃんバンドウイルカの愛称が「ラッキー」に決まりました。2025年3月25日から4月6日まで愛称募集を行い、全国各地から1523件もの応募が寄せられました。その中で最も多かった「ラッキー」（148件）が選ばれました。この名前には「多くの人に愛され、幸運に恵まれて幸せに育ってほしい」という願いが込められています。また、「ラッキー」と応募された方の中から、命名理由を踏まえて代表命名者3名を決定し、4月29日に命名認定証授与式を行いました。

「ラッキー」は生後7か月を迎え、毎日少しずつ成長しています。生まれたときは推定で体長110cm、体重は15kgでしたが、先日行った健診では、体長142cm、体重59kgとなり、赤ちゃんから子どもらしい体型に変化しています。また最近では一人遊びを始めたりアクリル前のお客様を見に行ったりと好奇心旺盛な一面がみられます。

皆さんも、これからのラッキーの成長をどうぞ温かく見守ってください。

飼育展示第二課　榊原　正己

Aquarium Topics 02

ザラビクニンを展示しました

髭のように見えるのは胸びれから伸びる軟条。味蕾があり、これを使って海底の餌を探します。

南館深海コーナーにて、クサウオ科の仲間であるザラビクニンを展示しました。名古屋港水族館では初めての展示です。ザラビクニンは日本海やオホーツク海に分布する水深200～800mに生息する深海魚です。深海世界の物理的特徴「高圧・暗闇・低温」に適応した、半透明で寒天質の柔らかい体を持っています。かねてより展示したいと考えていましたが、入手が難しく、なかなか実現できませんでした。今回、新潟市水族館マリンピア日本海から4個体を譲渡いただき、念願の展示がかないました。

深海生物というとじっとしている印象がありますが、ザラビクニンは常にゆったりと動いています。体長30㎝前後まで成長するにもかかわらず、その寿命は約1年。産卵するとその一生を終えてしまいます。この機会に深海魚らしいザラビクニンの姿を多くの方に観察していただきたいと思います。

飼育展示第一課　伊藤　友香

Aquarium Topics 03

名古屋港水族館 × JERA 環境教育　名古屋港スナメリかんさつツアー

3月25、28日に「名古屋港水族館×JERA 環境教育 名古屋港スナメリかんさつツアー」を実施しました。このイベントは広報パートナー株式会社JERA（以下「JERA」）と名古屋港水族館が共同で開催したもので、飼育員によるスナメリレクチャー、そして野生のスナメリを探しに行く乗船ツアー、さらにはJERAのスタッフによる企業の環境への取り組みについてのお話という3本立ての企画です。乗船人数が限られるため抽選とはなりましたが、全4回、計76名にご参加いただき、述べ34頭のスナメリを観察することができました。回によってはスナメリを目撃できたのは1名、頭数も1頭だけという回もありましたが、これも野生生物ならではのこと。再挑戦をぜひお待ちしています。

また、北館2階にスナメリを題材とした新たな展示も誕生しました。一番の見どころはスナメリの実物大模型。フォルムや色味にこだわって制作しました。展示を通してスナメリを身近に感じ、目の前に広がる港をこれまでとは違った視点で見てもらえると嬉しいです。

かんさつツアーの様子は北館2階の発見コーナーで映像で紹介しています。

スナメリの実物大模型付きのパネル。スライドしたり回したりするギミックもあります。

飼育展示第二課　宮嶋　桃子

Aquarium Topics 04

春の季節展「春告魚（はるつげうお）」

今年の春の季節展の主役は、透明な体が涼やかなシロウオでした。シロウオはちょうど春に旬を迎える魚。「春に旬を迎え、漁獲量が上がる魚」を「春告魚」と呼ぶのですが、シロウオもまさにそのひとつです。四手網（よつであみ）という伝統的な漁法でとられることも、春らしい風情があります。

そんなシロウオには、他にも特徴があります。たとえば命のはかなさ。繁殖期である2～5月を過ぎると寿命を終えてしまう、いわゆる一年魚です。展示を無事に終えるまで、正直なところ少し不安もありましたが、全長およそ5ｃｍの小さな体でしっかりと春を伝えてくれました。

担当者として語る私ですが、実は“踊り食い”で知られるシロウオ、まだ食べたことがないんです。一度は体験してみたい気もするのですが…今回、搬入から関わり、大切に飼育したことで、すっかり愛着が湧いてしまいました。今後果たして食べる勇気が湧くのでしょうか…。

春の短い命に寄り添った今年の展示。私にとって忘れられない春になりました。

飼育展示第一課　尾田　愛実